

予算のあらまし

～弥富駅周辺のまちづくりを推進～

一般会計	168億円
特別会計	86億円
企業会計	21億円
合計	275億円

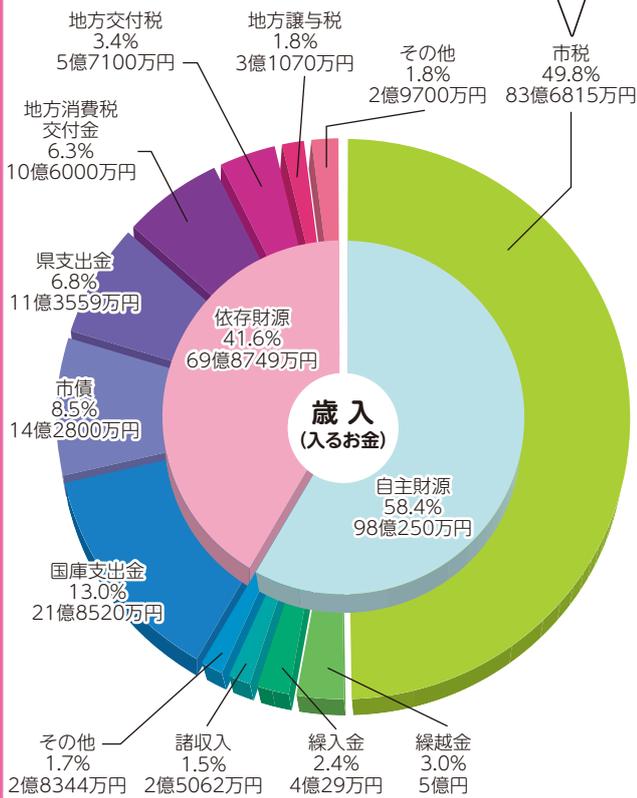
一般会計

自主財源 98億 250万円
依存財源 69億8749万円

新年度の自主財源は歳入総額の58.4%を占めている。

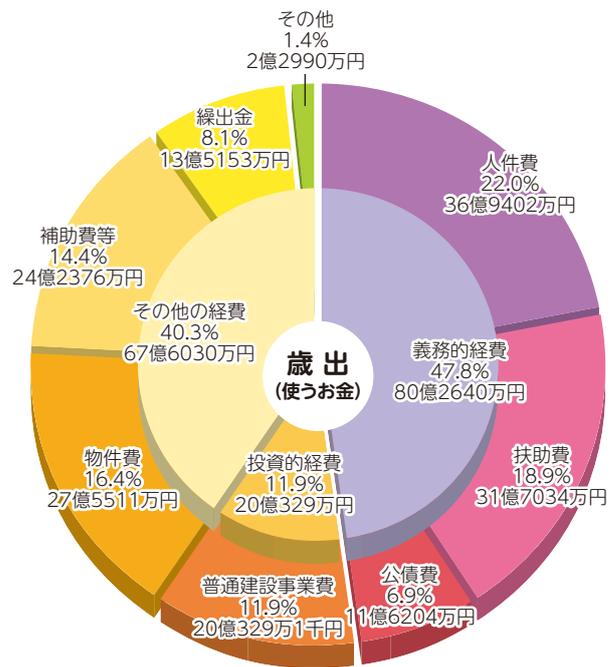
市の歳入には、個人市民税・法人市民税・固定資産税・市たばこ税の市税や繰入金などの**自主財源**(この割合が高いほど財政が安定)と、国・県などから定められた額が交付されたり、割り当てられる収入の**依存財源**がある。

個人市民税	25億9800万円	法人市民税	3億5300万円
固定資産税	47億2100万円	交付金	2億6704万円
軽自動車税	1億1780万円	市たばこ税	3億1000万円
入湯税	130万円		



義務的経費 80億2640万円
投資的経費 20億 329万円

歳出を性質別経費に応じて分類すると人件費、扶助費、公債費はその支出が義務づけられ、任意に節減することができない**義務的経費**(この割合が小さいほど財政にゆとりがある)と、普通建設事業費や災害復旧事業費などの**投資的経費**がある。



歳入においては個人所得が堅調であったことに加え、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う固定資産税の軽減措置が終了し、市民税や固定資産税の増加が見込まれる。

歳出ではJR・名鉄弥富駅自由通路及び橋上駅舎化事業に本格的な着手を行うための関連予算のほか、扶助費の伸びや子育て施策の拡充、防災・減災対策に重点を置いている。

主な事業として、小学校管理運営事業(弥生小学校長寿化改良工事)、総合体育館管理運営事業(総合社会教育センター総合体育館特定天井撤去工事)、土地取得事業(弥富駅北口駅前広場の用地買収)、子ども医療助成費事業(子どもの医療費自己負担分を全額助成)などがある。

令和4年度の当初予算は一般会計約168億円、特別会計(4会計)で約86億円、企業会計約21億円、総額は約275億円、前年度比3・8%の増となった。